

## 音・音楽を感じ、イメージから表現へ ——保育者養成の授業実践——

### Feeling Sound and Music, from Imagination to Expression: Classroom Practice for Childcare Teacher Training

田上 栄美子  
Emiko Tagami

#### はじめに

「音楽ってどんな活動が考えられますか？」の質問に多くの人は、歌うこと、楽器を演奏すること、あるいは音楽を聴くことだと答えるだろう。保育者養成校のT短期大学生やT児童合唱団の子どもたちにこの質問をした。やはり同じだった。大人も子どもも音楽と言えば、歌唱、器楽演奏、音楽鑑賞と捉えているようだ。

また、子どもたちから「音楽の授業で、〇〇は歌詞を覚えて歌えるようになったから、もう（学習は）終わった」、「〇〇をリコーダーでふけるようになったから、もう（学習は）終わった」という声も聞いた。保育者をめざす学生に当てはめてみると、「〇〇の歌詞を覚えて歌えるようになったから、何度も歌ったから、弾き歌いができるようになったから音楽表現の学修は終わった」となるのだろう。学生が子どもの歌やわらべうたなどを歌ったり弾き歌いしたりすることは、幼児教育の音楽表現活動の目的ではなくあくまでも手段である。子どもは、「生活の中で様々なものから刺激を受け、敏感に反応し、諸感覚を働かせてそのものを素朴に受け止め、気付いて楽しんだり、その中にある面白さや不思議さなどを感じて楽しんだりする<sup>1)</sup>」。子どもは、身のまわりの音、自然の音、人の声などを聞いたり、見たり、触れたりして多くのことを感じ取ったり、自ら主体的に関わることで五感を豊かにしながら世界を広げていく。そのため、保育者は、音楽表現活動を介して子どもに何を感じ取らせたいのか、気付かせたいのか、何を工夫させたいのか、心情・意欲・態度をどのように育ませたいのかをしっかりと考えることが必要である。学生たちには、身近な音や自然の中に存在する音に耳を傾け、音・音楽を感じ、イメージを膨らませて表現活動を工夫するなど意欲的に取り組んでほしいものである。

本稿ではT短期大学生を対象に行った音楽表現活動の授業実践を報告する。この授業を通して、学生自身が「音」にこだわり、「音」に耳を傾け、仲間とともに表現する活動を楽しみ、自身の感性

を磨き豊かに培うことができた。子どもの立場に立ち、いろいろな音を見付け、協働して音・音楽で遊び、感動し、表現を工夫することの楽しさや面白さを味わうことが、よりよい保育活動につながるということについて考察する。

### 「保育×ミュージック」とは

「保育×〇〇」は、T短期大学の独自科目として設置されている特別研究科目の授業である。〇〇には「アート」「ミュージック」「国際」「食育」「ICT」など7つの分野が入る。例えば、「保育×アート」「保育×ミュージック」…である。活動は、1・2年生を均等分けした15人程度のグループで行う。各分野の活動時間は、4時間（90分×2時間を2回）である。授業のねらいは、「子どもの目線に立って様々な分野の視点から保育を学び、異年齢集団の中でコミュニケーションを取り合いながら保育者としての資質・能力を培う」である。

本稿で取り上げたのは、「保育×ミュージック」の学修の中で行った「身のまわりのものや自然などの音を感じ、音のイメージを膨らませて表現する」取組みである。テーマは、2020年度は「図形楽譜のイメージを音楽で表現しよう」、2022年度は「言葉から音をイメージし、ボイスアンサンブルをつくって遊ぼう」、2023年度は「音のイメージを活かして音楽表現しよう」である。

### 実践

#### 実践1 「図形楽譜のイメージを音楽で表現しよう」(2020年)

**活動の概要** 活動は、4～5人の班で行い、図形楽譜（筆者が作成したもの）から音を感じて音・音楽で表現することを目標とする。図形楽譜から音を感じイメージし、耳を働かせて音を観て（聴き）、音と向き合い、表現する楽しさや面白さを味わう。図形楽譜「あ」「い」「う」（図1～3参照）から1つ選び、カスタネット、トライアングル、太鼓などの打楽器、ミュージックベル、ラテン楽器などを用いて音・音楽で表現する。楽器の種類も数も制限なく、必要なものを自由に使える。時間は約30分間である。出来上がった音楽を全員で聴き合い、振り返りをする。

#### 活動の様子

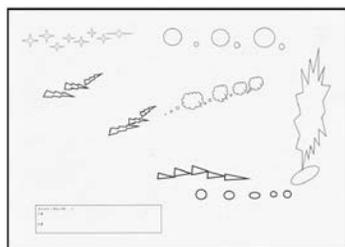


図1 図形楽譜「あ」

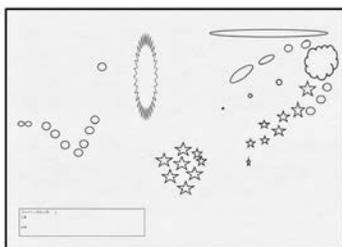


図2 図形楽譜「い」

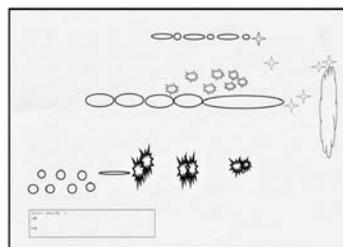


図3 図形楽譜「う」

【各図形楽譜を選んだ班と使用した楽器】

※A-3班は「Aグループ第3班」のこと。以下同様に記載する。

図形楽譜「あ」…A-3班（ミュージックベル）、B-1班（ミュージックベル）、C-3班（すず、ウッドブロック、タンブリン、カスタネット、ミュージックベル）、D-3班（ミュージックベル）

図形楽譜「い」…A-1班（ミュージックベル）、B-2班（ミュージックベル）、C-2班（シンバル、マラカス、スレイベル、トライアングル、ミュージックベル）、D-1班（ミュージックベル）

図形楽譜「う」…A-2班（ミュージックベル）、B-3班（ミュージックベル）、C-1班（タンブリン、カウベル、トライアングル、カスタネット、すず、太鼓、ミュージックベル）、D-2班（ミュージックベル）

ドレミもなくリズムもない図形楽譜から音楽を演奏するという事は、学生たちにとって初めての経験で、大変驚き、想像もつかないといった様子であった。しばらく楽譜とにらめっこして溜息さえも聞こえていた。そのうち、「この星のような形は、キラキラしている感じの音かな」、「○の大小は、大きい小さい（強弱）で表したらどうだろう」「丸い形は柔らかい。角張っているのはごつごつしている感じかな」などのつぶやきが少しずつ聞こえ出した。互いに思いや考えを出し合うことから音楽という形をつくる糸口が見付かってきたのだ。全体の図形から、また一つ一つの図形の形や大小、位置などからイメージを膨らませて音楽を完成させていった。楽器の奏法にはこだわらず、イメージに近い音、考えていたひびきを出すことができるか模索した。例えばミュージックベルの場合、普通は美しい音色やひびきを楽しむのだが、それには拘らずに音色、音価、速度などを工夫した。ベルを手で押さえてひびきを止めるのでも、一瞬鳴ったと感ずるほどなのか、少し長めなのかと、いろいろ試していた。イメージとピタッと合った音に出会えた時のうれしそうな表情が印象的であった。学生は、練習しては話し合い、話し合っては練習を重ねた。音を出すタイミングや間の取り方が思った以上に難しかったようで、班全員が1、2、3…と体でカウントをとったり、目で合図したりするなど合わせる工夫をどんどん加えていった。その結果、どの班も息の合った音楽を発表することができた。各班の作品について曲の雰囲気やニュアンスを少しでも感じていただければと、作品の一部を筆者が採譜したものを紹介する。

【C-2班の作品 / 図形楽譜「い」】 楽器：楽譜に記載

【B-1 班の作品 / 図形楽譜「あ」】 楽器…ミュージックベル



【D-2 班の作品 / 図形楽譜「う」】 楽器：ミュージックベル



学生の振り返り（抜粋）

- ・ 図形の形、大きさを見て音をイメージし、班で一つのものをつくりあげる過程が面白かった。何度もいろいろな音を出して、楽器を替えてと試行錯誤した。完成したときは達成感を感じ、音楽って楽しいなと思った。
- ・ 図形（楽譜）を見て感じたことを音で表すことで、1つの音楽ができた。みんなで「どうする？」と話し合うことで、自分とは違う意見を聞くことができて面白いと思った。一つの楽器でも鳴らし方や音の大小でイメージが変わることがわかったので、音の楽しさを伝えていきたい。
- ・ 音符や音楽に詳しくなくても、自分の思いや感情を音やメロディで表すことができるということを学んだ。
- ・ 「この形はこんな音かな」「これくらいの長さかな」と考えたりして想像するのは楽しかった。こんなふうに子どもたちは、想像力や音楽の感性を育てていくのかなと思った。

実践2「言葉から音をイメージし、ボイスアンサンブルをつくって遊ぼう」（2022年）

活動の概要 活動は、3～4人の班で行う。曲のつくり方は、①テーマ（言葉）を決める。②テーマから思い浮かぶオノマトペ（擬態語、擬音語、擬声語など）を出し合う。③出し合ったオノマトペの中からアンサンブルで使うオノマトペ（以後「素材」という）を3～5個選ぶ。④それぞれの素材にリズムを付ける（4分の4拍子、2小節）。⑤パートの担当を決める。⑥曲の構成を考えて練習する。⑦発表会をして振り返りをする。つくる時間は約20分間である。

活動の様子

【D-1班の①～⑥の取組み】

- ①テーマ …「乗り物」
- ②出し合ったオノマトペ …ブーブー、ブーン、ガタンゴトン、ピーポー、ビューン、ポー、ウー、ブゥーン、ボーン
- ③選んだ素材 …「ガタンゴトン」「ブーン」「ピーポー」
- ④素材にリズムを付ける（表1）

表1 考えたリズム

	1小節				2小節			
①パート	(ウソ)	(ウソ)	(ハ)ガタン	ゴトン	(ウソ)	(ウソ)	(ハ)ガタン	ゴトン
②パート	ブーン	(ウソ)	ブーン	(ウソ)	ブーン	ブーン	ブーン	(ウソ)
③パート	ピー	ポー	(ウソ)	(ウソ)	ビボ	ビボ	(ウソ)	(ウソ)

※筆者が楽譜に書き直したものを

① ガタンゴトン

② ブーン ブーン ブン ブン ブン

③ ピーポー ビボビボ

- ⑤担当を決める …①パート（学生A）、②パート（学生B）、③パート（学生C）
- ⑥曲の構成を考えて練習する（表2）

表2 曲の構成

（「○」…演奏する 「・」…休み）

		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
学生A…	①パート	・	・	○	○	○	○	・	○
学生B…	②パート	○	○	○	・	・	○	○	○
学生C…	③パート	・	○	○	・	○	○	○	○

※表の読み方

- 1回目は、学生Bが②パートの2小節分を歌う。
- 2回目は、学生Bと学生Cがそれぞれのパートの2小節分を歌う。
- 3回目は、全員がそれぞれの2小節分を歌う。（以下、表の中の○の部分）

【C-2班の取組み】

- ①テーマ …「水」
- ②素材にリズムを付ける（表3）

表3 考えたリズム

	1小節				2小節			
①パート	(ウソ)	ポタッ	(ウソ)	(ウソ)	(ウソ)	(ウソ)	ポタッ	(ウソ)
②パート	チョロ							
③パート	チャップ	(ウソ)	チャップ	チャップ	チャップ	チャップ	(ウソ)	チャップ
④パート	タブ	タブ	パシヤ	パシヤ	ザー	ザー	ザー	(ウソ)

※筆者が楽譜に書き直したもの

①  $\text{ポタッ}$   $\text{ポタッ}$

②  $\text{チョロチョロチョロチョロ}$   $\text{チョロチョロチョロチョロ}$

③  $\text{チャップ}$   $\text{チャップ}$   $\text{チャップ}$   $\text{チャップ}$   $\text{チャップ}$   $\text{チャップ}$

④  $\text{タブ}$   $\text{タブ}$   $\text{パシヤ}$   $\text{パシヤ}$   $\text{ザー}$   $\text{ザー}$   $\text{ザー}$

③曲の構成を考えて練習する (表4)

表4 曲の構成

(「○」…演奏する、「・」…休み)

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
①パート	○	○	・	・	・	○	○	④パート みんなで
②パート	・	・	○	○	・	○	○	
③パート	○	○	・	・	○	・	○	

この活動は、2年生は以前授業で学修したので、2年生が1年生に方法を教えながら進めた。テーマ選びは、その場で耳を澄ませて聴こえてきた音をヒントに考える班や、全く自由な発想で考える班などそれぞれであった。「このテーマ△△と言えば○○」とつぶやきながら言葉を探した。言葉の音価を工夫したり言葉のもつリズムの面白さを活かしたりして楽しんでつくっていた。また、曲の構成に繰り返しの部分を取り入れたり強弱を考えたりする班もあった。

「子どもだったら、○○はできるかな？」と子どもを思い浮かべながら、子どもも楽しくできるようにしていた。発表会は学生が、「明るい声で!」「にこにこして!」「しっかり合わせよう!」と声を掛け合っていた。どの班も、みんな「1、2…」と体を揺らしながら拍を

表5 各班のテーマと選んだ素材

分類	テーマ	班	選んだ素材
季節	夏	C-1	サーサー、ジジジー、チリンチリン、ヒュードン
	夏	C-3	ギラギラ、ヒュードン、パチャパチャ、ミンミン、リンリン
	冬	B-2	リンリン、コンコン、シャー、ヒュー
自然	風(wind)	A-1	ヒューヒュー、ビュービュー、ザーザー、ゴーヒュー
	葉っぱ	D-3	カサカサ、ヒラヒラ、サラサラ
	雨のピザ	E-1	ピーピー、ザザザー、シャー
	雨の日	E-2	ピーピー、ジャラジャラ、シャーシャー、プロテテテ
	グランドから聞こえる音	A-3	ザッザッ、パタパタ、ベチャグチャ
	水	C-2	ポタッ、チョロチョロ、チャップチャップ、タブタブパシヤ、ザーザー
鳥、動物	鳥の鳴き声	A-2	ピヨピヨ、カカカ、ホーホケキョ、カタカタ
	動物の鳴き声	B-3	ワンワン、ブーブー、ニャンニャン、
など	動物園	B-1	ガオウ、ガーガー、ピョンピョン、パッカパツカ、メーメー、ウッキッキー
	動物	D-2	キューイ、ピョンピョン、ニャーニャー、ワンワン、バカバカ
乗り物	雨の中の車	E-3	ピーピー、ザーザー、ヴーン
	乗り物	D-1	ガタンゴトン、ブーン、ピーポー

取り、息を合わせて歌うことができた大変満足した発表会となった。

#### 学生の振り返り（抜粋）

- ・水といっても様々ある。音から場面を想像し、場面から音を考えて。「ポタッ」は休符を多く入れて、水が滴る感じ、「チョロ」は、8拍全てに入れて、水が絶え間なく流れている感じにした。曲の構成は、1回目は①パートと③パートを組み合わせた。①パートの休符部分に③パートの言葉が入る。交互に音が入ることによって補いながら演奏できると考えた。身のまわりの音を感じることができた上に、自由な発想で表現を工夫できるので、音・音楽の楽しさを味わえた。自分のパートを演奏するという役割分担があるので、演奏は責任感をもたなければと感じた。
- ・同じ音を聴いても、文字にしてみると人によって感じ方が違うことが分かった。言葉は同じなのに、リズムが少し変わるだけでも雰囲気が変わると感じた。
- ・ボイスアンサンブルは、強弱、声の音高を意識することでメリハリがつく。どの音やリズムを強調させたいかを考えてつくることも大切だ。一定の速度を保って演奏することも自分たちで行わなければならなかったのが難しかった。強弱を意識するとテンポが速くなったり遅くなったりした。まわりの音を聞いて合わせようと努力した結果、テンポが安定してうまくいった。
- ・全員がそろった時、一体感と達成感を得ることができた。子どもたちと一緒に遊ぶ時、音遊びを楽しむこととともにクラス全体が一体となり協調性を養うことができると気付いた。
- ・みんなで何かを一緒にやるのってこんなに楽しいんだとわかった。

#### 実践3「音のイメージを活かして音楽表現しよう」（2023年）

**活動の概要** 活動は、4～5人の班で行う。「紙」、「石」、「木」のどれか一つの素材を選び、振ったり叩いたり破ったりなどした時に出た「音」を言葉（オノマトペ）で表現したり絵で描いたりする。各グループの活動内容に若干の違いがあるので、それぞれ紹介する。つくる時間は約20分間である。これらの活動に使用した素材の準備物は、次の通りである。「紙」…新聞紙、画用紙（白色、色画用紙）、工作用紙、コピー用紙、箱、色紙、ラップ等の芯、包装紙など、「石」…雨花石（庭石に使われる石）、「木」…机、丸棒、板、スラップスティック（楽器）、バトン（体育用）、竹で作った手作り楽器（ギロや笛など）、けん玉、けん玉の玉などである。

#### 活動の様子

○Aグループ…まず、見付けた音を言葉や絵で描く。次に、音を使って音楽をつくり図形楽譜を描く。曲名を付ける。

#### 【A-2班の取組み】

- ①素材 …「木」
- ②見付けた音を言葉や絵で描く（表6）
- ③音楽をつくる。図形楽譜を描く（図4）

演奏順は、㊦～㊩→㊪～㊫→㊬～㊭である。木をこすったり叩いたりして図形楽譜を演奏して表現する。この演奏は次の通り。

「コン コン カン カン コン コン カン コン カン コン カン ……」

④曲名「森のソルフェージュ～木のさえずりを添えて～」

表6 素材「木」から見付けた音

見付けた音	言葉で表す	絵で表す
けん玉をした時	カン	
スラップスティックを打つ	パーン!	
丸い棒2本を打つ	コンコン	
けん玉の玉2つを打ち合わせ	カッカッ	

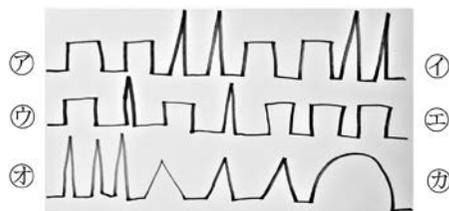


図4 A-2班の図形楽譜

○Bグループ…素材から音を見付け、見付けた音から場面を想像して「音によるお話」をつくり、その様子を表す絵を描く。タイトルを付ける。

【B-3班の取組み】

①素材 …「紙」

②音によるお話をつくり、絵に表す (図5)

天気は晴れ、暖かい風が吹いている…「スリスリ」(画用紙をこする)



図5 B-3班の絵

だんだん雲が出てきた

…「ポヨポヨ」(画用紙を揺らす)

雨が降ってきた

…「クシャクシャ」(新聞紙をめくる)

雷も鳴り出した

…「バンバン」(画用紙をたたく)

雨がやんで、晴れた

…「スリスリ」(画用紙をこする)

③タイトル「天気」

○C、Dグループ…素材から見付けた音を使ってリズムアンサンブルをつくる。4分の4拍子、2小節のリズムを考える。但し、1小節分を考え、2小節目はそれを繰り返す。曲の構成を考える。曲名を付ける。(リズムアンサンブルの作り方は2022年度を参照)

【D-3班の取組み】

①素材 …「石」

②見付けた音を言葉や絵で描く (表7)

③音楽をつくり、図形楽譜を描く (表7)

④曲名「梅雨の音楽隊」

学生は、素材を触ったり叩いたり落としたりなどして次々にアイデアを出し合いながら音見付けを行った。音を言葉(オノマトペ)で表すことも面白がっていた。しかし、一番悩んだのが音を描くこ

表7 D-3班の音楽

打ち方	音	考えたリズム (絵)	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回
ア)石同士を打ちつける	カンカン	カ カン カ (ウン) カン	○	○	○	○	○	○	○	○
イ)石同士を擦り合わせる	ショリショリ	ショリ ショリ ショリ ショリ	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ)両手の中で石同士を振る	グログロ	(ウン) グロ (ウン) グロ	○	○	○	○	○	○	○	○
エ)石同士をはじく	ミンミン	ミン ミン ミン (ウン)	○	○	○	○	○	○	○	○
オ)机の上に軽く落とす	ゴーン	(ウン) (ウン) (ウン) ゴーン	○	○	○	○	○	○	○	○

とである。音のニュアンスを伝えるにはどう描けばよいか、自分たちの思いや音の感触がこれで伝わるかなど、とても真剣であった。中には、子どももできるようにと、構成を絵で表した班もあった。身のまわりのものから、予想以上にいろいろな音に出会うことができた活動であった。

#### 学生の振り返り（抜粋）

- ・木の棒同士を叩くとコンコン、すり合わせるとシュッシュュッ、けん玉の玉同士を叩くとカンカン、穴のあたりを叩くとこもった音でコンコン、玉を転がすとココココ…。これらを使って転がる玉を主人公とする「玉の冒険」にした。木の伐採の場面では、木の棒同士をすり合わせてのこぎりの音と考えた。叩くだけでも、握る強さや叩く場所を変えるだけで音に変化が出ることが分かった。（B-1班「木」を素材に音楽づくり「玉の冒険」）
- ・音を絵で表現するという活動をしたことがなく、難しかった。図形楽譜を他の人が見たら「何かいてるん？」と思われるようでも、自分たちは見て演奏することができるため、世界に一つの楽譜という特別な感じがして、すごくワクワク感があった。（A-2班「木」を素材に音楽づくり「森のソルフェージュ～木のさえずりを添えて～」）
- ・説明を聞いた時は、たったこれだけの道具でそんなことができるのか、どんな曲になるのか、全く先の見えない感じだった。石を使いみんなでいろいろな音を探してみると「なるほど！そんな鳴らし方があったか！」と、仲間の発見に驚いたり音を表す意見を出し合ったり、様々な視点から音やアイデアを見付ける楽しさを味わうことができた。（D-3班「石」を素材に音楽づくり「梅雨の音楽隊」）

### 考 察

この取組みは、学生が仲間とともに音・音楽で遊ぶことを通して、ものや音への固定概念を崩し「いろいろな音の発見」へとつながった。また、学生は、仲間とアイデアを凝らし音・音楽をつくる活動を通して、ワクワク感、責任感、仲間との一体感、達成感などを多く感得した。そして、「こんな表現をしたい」という表現へのあこがれをもって自分の表現をする楽しさや仲間とともに活動する喜びを十分に満喫することができた。

音楽と言えば、歌唱、器楽演奏、音楽鑑賞と捉えられていることは前述したが、子どもにとっては、身のまわりの音や自然の音、鳥の声や人の声さえもが表現の素材であると捉えなければならぬ。「音楽の始まりは音の感受にあります<sup>2)</sup>」と言われるように、子どもは、音を良く聴き五感を働かせて感じることから、心を惹かれたり美しさを感じたりし、そして、感じたことを自ら表現したいと思うのである。音楽は表現したら消えてしまうものだが、音を絵や図形で表すことや言葉で表すことによって視覚化できること、即ち音楽と形がつながることによってイメージが広がり、豊かな発想や豊かな感性が生まれ、いろいろな表現の工夫に発展できることが、この活動から見ることができた。

保育者を目指す学生には、子どもたちが目をキラキラさせて見たり聴いたり、感じたり、音・音

楽のイメージを伸び伸びと自分なりに表現できるように、自ら創意工夫して楽しい音楽表現活動をつくり上げてくれることを期待する。

今後も、子どもが音・音楽を楽しみ活動できる表現の工夫を考えていきたい。

### 引用文献

- 1) 文部科学省. (2018). *幼稚園教育要領解説*. (p.235). : フレーベル館.
- 2) 無藤 隆, 監修・大方美香. (2023). *子どもの発達からみる「10の姿」の保育実践*. (p.9). : ぎょうせい.

### 参考文献

- 石上則子. (2017). *「音楽づくり・創作」の授業デザイン*. : 教育芸術社.
- 小原光一ほか13名. (2018). *小学生の音楽5*. : 教育芸術社.
- 河口道朗. (2003). *音楽教育入門*. : 音楽之友社.
- 文部科学省. (2018). *幼稚園教育要領解説*. : フレーベル館.
- 山田俊之. (2002). *楽しいボディパーカッション②-山ちゃんのリズムスクール*. : 音楽之友社.
- ヨイサの会. (2001). *「音」を「楽」しむ「音楽」の旅*. : 音楽之友社.